発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

吉田芳春	REC'D 1 4 APR 2005
村	PC
あて名	WIPO
T 105-0001	PCT 国際調査機関の見解書
東京都港区虎ノ門一丁目21番19号 秀和第二虎ノ門ビル6階	(法施行規則第40条の2) 【PCT規則43の2.1]
	^{発送日} 12, 4, 2005
出願人又は代理人 の書類記号 PCT-2501	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP2005/000120 (日.月.年) 07	優先日 . 01. 2005 (日.月.年) 07. 01. 2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl' H011	
出願人(氏名又は名称)	
	环菜 創造研究所
それを製付けるための文献及び説明 第VI棚 ある種の引用文献 第VII棚 国際出願の不備 第VII棚 国際出願に対する意見 2. 今後の手続き 国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際 際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づい	る新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
	見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
ら3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了す。 な場合は補正掛とともに、答弁書を提出することができ	みなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日かる期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当る。
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照	すること。
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を	参照すること。
8 677-12-4 /h-12-1 -4-17	
見解書を作成した日 28.03.	2005
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区版が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 酒井 英夫 電話番号 03-3581-1101 内線 3469

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 棚 見解の基礎		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
1. この見解書は、下	記に示す	場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。
この見解書は、 それは国際調査		語による翻訳文を基礎として作成した。 に提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。
2. この国際出願で開 以下に基づき見解		>つ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、 なした。
a. タイプ		配列表
		配列表に関連するテーブル
b. フォーマット	. 🗌 🔞	咨面
·	:	コンピュータ読み取り可能な形式
c. 提出時期		出願時の国際出願に含まれる
	□.;	この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
	l	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された
		2列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出し 出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が
4. 補足意見:		
		•
·		
	·	
	·	
	•	

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2005/000120

第V欄 新規性、進歩性又は産業 それを裏付る文献及び説明	上の利用可能性についての 月	DPCT規則43の2.1(a) (i) に定める見解、	
1. 見解 .			
新規性(N)	請求の範囲 請求の範囲	1–20	有 無
進歩性(IS)	. 請求の範囲	1-20	有
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 請求の範囲	1-20	有 無

2. 文献及び説明

文献 1: JP 4-71257 A (株式会社日立製作所) 1992.03.05,

第3頁右上欄第5行-右下欄第13行, 第1図, 第2図

文献 2: JP 6-275746 A (株式会社日立製作所) 1994.09.30, 【0014】-【0025】,

図1-12

文献 3: JP 11-54676 A (荏原電線株式会社) 1999.02.26, 【0011】-【0014】,

√、図1-4

文献4: JP 4-243153 A (アクトロニクス株式会社) 1992.02.26, 【0013】, 図9-11

文献 5: JP 4-206555 A (株式会社日立製作所) 1992.07.28,

第3頁左下欄第17行-第4頁左下欄第20行, 第2図

請求の範囲1-20

ヒートシンクに設けられたコイル状金属線材からなるフィンにおいて、隣接する巻回単位が相互に位置ずれして接合され、かつ扁平に形成されたものは、国際調査報告に引用された文献1-5のいずれにも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

出願人代理人	REC'D 1 4 APR 2005
吉田 芳春	707
↓ ↓あて名	WIPO PCT
〒 105-0001	PCT.
·	国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2)
東京都港区虎ノ門一丁目21番19号 秀和第二虎ノ門ビル6階	【PCT規則43の2.1】
A STANSON TO SEE SEE SEE SEE SEE SEE SEE SEE SEE SE	発送日
	^{」 (日. 月. 年)} 12. 4. 2005
出願人又は代理人 の書類記号 PCT-2501	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 国際出願日	優先日
PCT/JP2005/000120 (日.月.年) 07.	01. 2005 (日.月.年) 07. 01. 2004
国際特許分類 (IPC) Int. Cl' HO1L	23/367
出願人(氏名又は名称)	
株式会社事	業創造研究所
1. この見解書は次の内容を含む。	
※ 第Ⅰ概 見解の基礎	
第14個 優先権	
第Ⅲ棚 新規性、進歩性又は産業上の利用可	能性についての見解の不作成
第IV欄 発明の単一性の欠如 × 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する	7 112 Hall 14 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15
それを裏付けるための文献及び説明	5新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
□ 第VI欄 ある種の引用文献	
□ 第117 国際出願の不備	
」第四欄 国際出願に対する意見	
2. 今後の手続き	
国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際副際予備審査機関がRCT規則SS 100(4)の規模に基本機関がRCT規則SS 100(4)の規模に基本し	明査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国
ない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見	「国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさ」 上解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる
	•
りょれ人は変元りから22月のうちいずれか遅く満てする	なされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日か が期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当
な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる	Do
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照す	-ること。
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参	開すること。
Parthy Hells h	
見解書を作成した日 28.03.	2005
名称及びあて先	特許庁審査官(権限のある職員) 4R 9631
日本国特許庁(ISA/JP)	酒井 英夫
郵便番号100-8915 東京都千代田区館が関ニナ日ル来3号	知任来品 0.2 0.5 0.1 1.1 0.1 1.10 0.10 0.10 0.10 0.1

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎		•
1. この見解書は、下部	尼に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。	
この見解書は、 それは国際調査	語による翻訳文を基礎として作成した。 のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の首語である。	
2. この国際出願で開示 以下に基づき見解制	riされかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、 きを作成した。	
a. タイプ	配列表	
·	配列表に関連するテーブル	
b. フォーマット	- 各面	
,	コンピュータ読み取り可能な形式	
c.提出時期	出願時の国際出願に含まれる	
	この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された	•
	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された	
3 さらに、配列ま た配列が出願時 あった。	長又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提 時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提	出し
た配列が出願時 あった。	長又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提 時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提	出し出が
た配列が出願時	長又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提 時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提	出し
た配列が出願時 あった。	長又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提 時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提 が、	出し 出が
た配列が出願時 あった。	長又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提 時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提 が、	出し出が
た配列が出願時 あった。	長又は配列表に関連するテープルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提 時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提 が	出し 出が
た配列が出願時 あった。	長又は配列表に関連するテープルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提 特に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提	出し出が
た配列が出願時 あった。	寺に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提	出が
た配列が出願時 あった。 4. 補足意見:	寺に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提	出が
た配列が出願時 あった。 4. 補足意見:	を又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提 時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提 が	出が
た配列が出願時 あった。 4. 補足意見:	寺に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提 ・	出が
た配列が出願時 あった。 4. 補足意見:	寺に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提 ・	出が
た配列が出願時あった。 4. 補足意見:	特に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提	出が
た配列が出願時あった。 4. 補足意見:	寺に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提 ・	出が

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2005/000120

第V欄 新規性、進歩性又は産業上 それを退付る文献及び説明	この利用可能性についてのP 引	CT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、	
1. 見解			
新規性(N)	請求の範囲	1–20	有
進歩性(IS)	· 請求の範囲 請求の範囲	1-20	有
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1–20	有

2. 文献及び説明

文献 1: JP 4-71257 A (株式会社日立製作所) 1992.03.05,

第3頁右上欄第5行-右下欄第13行, 第1図, 第2図

文献 2: JP 6-275746 A (株式会社日立製作所) 1994.09.30, 【0014】-【0025】,

図1-12

文献 3: JP 11-54676 A (荏原電線株式会社) 1999.02.26, 【0011】-【0014】,

、図1−4

文献4: JP 4-243153 A (アクトロニクス株式会社) 1992.02.26, 【0013】, 図9-11

文献 5: JP 4-206555 A (株式会社日立製作所) 1992.07.28,

第3頁左下欄第17行-第4頁左下欄第20行, 第2図

請求の範囲1-20

ヒートシンクに設けられたコイル状金属線材からなるフィンにおいて、隣接する巻回単位が相互に位置ずれして接合され、かつ扁平に形成されたものは、国際調査報告に引用された文献1-5のいずれにも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。